

令和4年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書 【1年目】

P T A名	静岡県立浜松聾学校 P T A
学 校 名	静岡県立浜松聴覚特別支援学校 <input type="checkbox"/> 視覚障害 <input checked="" type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱
設 置 部	<input checked="" type="checkbox"/> 幼稚部 <input checked="" type="checkbox"/> 小学部 <input checked="" type="checkbox"/> 中学部 <input type="checkbox"/> 高等部
全校児童・生徒数	41人

1. 使用状況

寄贈物品名	電子黒板 昇降スタンド付
使用学年及び人数	小学部1年(1人)、2年(2人)、5年(4人)、6年(3人)、
使用頻度	それぞれの授業において2～5日/週
使用状況	<p>《各教科での授業で活用》 主に、国語、算数、社会、外国語、図工の授業にて活用</p> <p>① <u>資料の拡大提示</u>・社会科:グラフや表、地図など ・算数:三角錐、円柱など様々な図形を提示 ・外国語:デジタル教科書の提示 ・図工:鑑賞教材の提示</p> <p>② <u>インターネットの活用</u> ・インターネットで必要な情報を収集し提示 ・社会:動画視聴</p> <p>③ <u>情報や思考の共有</u> ・一人一台端末を併用し、児童の意見を電子黒板に表示</p>
物品の使用による 変化や効果	<p>① <u>資料の拡大提示</u> ・様々な資料を、簡単に、鮮明に拡大できるため、児童の理解につなげる手立てとして有効である。 ・算数では、教師が図形を手書きするよりも、正確に、速く提示することができる。また、そこに 何度も書き込んだり、消したりすることができるため、さらに有効な支援ができています。</p> <p>② <u>インターネットの活用</u> ・疑問点や不明点について、調べて、すぐに全体で共有できることで、児童が考えたり話し合ったりするための材料として活用することができています。</p>
今後の活用の 見通しや課題	より有効に活用できるようにするために、教員一人一人が使用に慣れて、効果的な使い方を習得する必要性を感じる。また、全学級がいつでも使うことができる体制を、校内で目指していけるとよいと思う。
その他 希望や所感など	電子黒板は、教室間を簡単に移動することが難しいため、現在は、決められた教室での使用に限られている。性能は同等で、もう少し簡易な電子黒板があると、より手軽に使用でき、さらに多くの授業において使用しやすくなるのではないかと感じる。

2. 活用の様子

○外国語(デジタル教科書の活用)



○算数(図形の拡大提示)



○学活(作文コンクール表彰式のオンデマンド配信を視聴)

